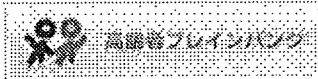
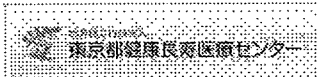




東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

- ホーム
- 研究の紹介
- 倫理的配慮及び関連法規
- ご遺族の皆様へ
- 病理解剖例の特徴
- 共同研究を希望される研究者の方へ
- 共同研究事業運用要綱
- お問い合わせ
- このホームページについて
- リンク



HOME > 造影剤を用いた共同研究事業一覧 > 薬害と認知障害

病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

薬害と認知障害

共同研究者

氏名	所属	職名
村山 菜雄	東京都老人総合研究所高齢者ブレインバンク	リーダー
齊藤 祐子	東京都老人医療センター剖検病理科	医員

研究内容

以前汎用されていたマイオジール髄腔内造影剤により、後性髄膜炎をおこし、軽度認知障害をきたした一例を報告、薬害がなお発症していく可能性を明らかにした。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Ruberu NN, Saito Y, Honma N, Sawabe M, Yamanouchi H, Murayama S. Granulomatous meningitis as a late complication of iodized oil myelography. <i>Neuropathology</i> . 2004;24(2):144-148.	参照

このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

- ホーム
- 研究の紹介
- 倫理的配慮及び関連法規
- ご遺族の皆様へ
- 病理解剖例の特徴
- 共同研究を希望される
研究者の方へ
- 共同研究事業運用要綱
- お問い合わせ
- このホームページについて
- リンク

HOME > 病理解剖例を用いた共同研究疾患一覧 > 大脳白質病変における血管因子

青島葉緑素を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

大脳白質病変における血管因子

共同研究者

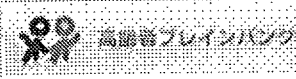
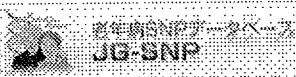
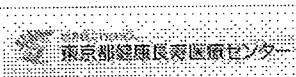
氏名	所属	職名
村山繁雄	東京都老人総合研究所高齢者ブレインバンク	リーダー
齊藤祐子	東京都老人医療センター剖検病理科	医員

研究内容

Binswanger型白質脳症の剖検例を、高齢者ブレインバンクと、ウィーン大学;オリジナル症例とで比較したところ、高齢者ブレインバンク症例の血管病変は、オリジナル症例に比べて動脈硬化性病変は軽いことが明らかとなった。これは、高齢化による影響か、なんらかの遺伝的素因によるものかは、今後の検討が必要である。

研究業績

#	論文名	リンク
---	-----	-----



このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

ホーム

研究の紹介

倫理的配慮及び関連法規

ご遺族の皆様へ

病理解剖例の特徴

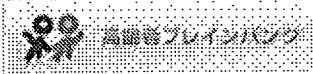
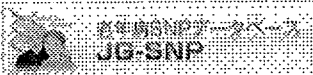
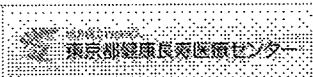
共同研究を希望される
 研究者の方へ

共同研究事業運用要綱

お問い合わせ

このホームページについて

リンク



HOME > 病理解剖例を用いた共同研究事業一覧 > パーキンソン病発症危険遺伝子の解明

病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

パーキンソン病発症危険遺伝子の解明

共同研究者

氏名	所属	職名
村山 繁雄	東京都老人総合研究所高齢者ブレインバンク	リーダー
齊藤 祐子	東京都老人医療センター剖検病理科	医師

研究内容

エストロゲンリセプターアルファ遺伝子の多型が、神経原線維変化の進展ステージと関係することを明らかにした。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Kazama H, Ruberu NN, Murayama S, Saito Y, Nakahara K, Kanemaru K, Nagura H, Arai T, Sawabe M, Yamanouchi H, Orimo H, Hosoi T. Association of estrogen receptor alpha gene polymorphisms with neurofibrillary tangles. Dement Geriatr Cogn Disord. 2004;18(2):145-150.	参照

このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

ホーム

研究の紹介

倫理的配慮及び関連法規

ご遺族の皆様へ

病理解剖例の特徴

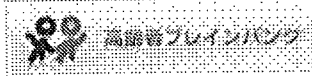
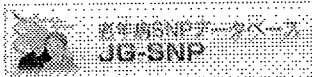
共同研究を希望される
研究者の方へ

共同研究標準運用要綱

お問い合わせ

このホームページについて

リンク



HOME > 病理解剖例を用いた共同研究事業一覧 > 大動脈脈波伝播速度と粥状硬化度の関係について

病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

大動脈脈波伝播速度と粥状硬化度の関係について

共同研究者

氏名	所属	職名
沢辺元司	東京都老人医療センター剖検病理科	部長
高橋龍太郎	東京都老人総合研究所福祉と生活ケア研究チーム	部長
松下 哲	勝榮堂病院	院長
小淵利男	東京都老人医療センター	名誉院長
中原賢一	国立病院機構長崎医療センター	統括診療部長
田中紀子	ハーバード大学公衆衛生大学院	客員研究員

研究内容

脈波伝播速度(PWV)は大動脈、中等大動脈の弾性度の指標であり動脈硬化に伴い増加し、近年心血管系合併症の重要な予後因子として注目されている。今回我々はPWVと粥状硬化症との関係を病理学的に検討したので報告する。健康診断にて1984年から1996年までの13年間にPWVを測定された3,456件中現在までに死亡し病理解剖になった304例を対象とした。ホルマリン固定した10動脈の粥状硬化度を肉眼的に半定量的評価した。粥状硬化度の平均を病理学的粥状硬化指数(PAI)とした。剖検例の平均年齢は83歳(67-103歳)であり男女比は6:5である。PWVは死亡時年齢($r=0.273$, p)

研究業績

#	論文名	リンク
1	Sawabe M, Takahashi R, Matsushita S, Ozawa T, Arai T, Hamamatsu A, Nakahara K, Chida K, Yamanouchi H, Murayama S, Tanaka N. Aortic pulse wave velocity and the degree of atherosclerosis in the elderly: a pathological study based on 304 autopsy cases. <i>Atherosclerosis</i> . 2005;179(2):345-351.	参照

このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

ホーム

研究の紹介

倫理的配慮及び関連法規

ご遺族の皆様へ

病理解剖例の検索

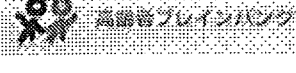
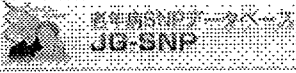
共同研究を希望される
研究等の方へ

共同研究事業運用要綱

お問い合わせ

このホームページについて

リンク



HOME > 病理解剖例を用いた共同研究事業一覧 > 子宮頸部ヒトパピローマウイルス感染の遷延と癌の発生

病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

子宮頸部ヒトパピローマウイルス感染の遷延と癌の発生

共同研究者

氏名	所属	職名
田久保海登	東京都老人総合研究所老年病のゲノム解析研究チーム	チームリーダー
下村七生貴	東京都老人総合研究所老年病のゲノム解析研究チーム	研究員
小岩井英美	東京都老人医療センター病理部門	技師
新井留生	東京都老人医療センター病理部門	医長
沢辺元司	東京都老人医療センター病理部門	部長

研究内容

ドイツ癌研究センターのハラルド・ツァ・ハウゼンが子宮頸部癌の発生はヒトパピローマウイルス(HPV)が原因であることを解明し、2008年のノーベル医学賞を受賞した。しかし、HPVは若い頃に感染するはずで、20代の日本人女性の10%以上がHPV陽性といわれ、その後頻度は上昇しない。しかし感染者の全員が癌になるわけではない。高齢になるまでにHPVは洗い流されて陰性となっているのか不明であった。高齢者や超高齢者の解剖例からは、若い頃より低い頻度でHPV陽性であり、多くのHPV感染は遷延しないことがわかった。また、HPV陽性患者に上皮内癌を見いだした。100歳近い患者からHPVと上皮内癌を見出し、数十年にわたりHPV感染と、多分癌も潜伏していることがわかった。以上からHPV感染の自然史を明らかにした。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Takubo K, Shimomura-Izumiyama N, Koiwai H, Honma N, Esaki Y, Yoshida T, Nakajima T, Sawabe M, Arai T. Detection of human papillomavirus infection of the cervix in very elderly women using PCR. Clin Cancer Res. 2005;11(6):2919-2923.	参照

このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤性推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

HOME > 病理解剖例を用いた共同研究事業一覧 > 高齢者ブレインバンクの構築

ホーム

研究の紹介

倫理的配慮及び関連法規

ご遺族の皆様へ

病理解剖例の掲載

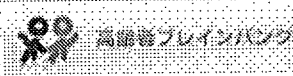
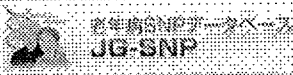
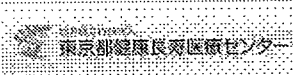
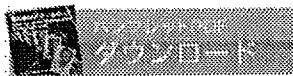
共同研究を希望される
 研究者の方へ

共同研究事業適用要綱

お問い合わせ

このホームページについて

リンク



病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

高齢者ブレインバンクの構築

共同研究者

氏名	所属	職名
村山繁雄	東京都老人総合研究所高齢者ブレインバンク	リーダー
齊藤祐子	東京都老人医療センター剖検病理科	職員

研究内容

高齢者ブレインバンクの構築を詳述、老年医学における意義を明らかにした。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Murayama S, Saito Y, Kanemaru K, Tokumaru A, Ishii K, Sawabe M. [Establishment of brain bank for aging research]. Nippon Ronen Igakkai Zasshi. 2005;42(5):483-489.	参照

このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創発基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター 病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

ホーム

研究の紹介

倫理的配慮及び関連法規

ご遺族の皆様へ

病理解剖例の特徴

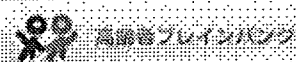
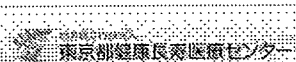
共同研究を希望される
研究等の方へ

共同研究事業適用要綱

お問い合わせ

このホームページについて

リンク



HOME > 病理解剖例を用いた共同研究事業一覧 > 病理解剖例を用いた全身動脈の粥状硬化度の加齢による変化、分布、性差について

病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

病理解剖例を用いた全身動脈の粥状硬化度の加齢による変化、分布、性差について

共同研究者

氏名	所属	職名
沢辺元司	東京都老人医療センター剖検病理科	部長
濱松晶彦	東京都監警医務院	医員
千田宏司	太田病院	副院長
原田和島	東京都老人医療センター循環器科	部長
小澤利男	東京都老人医療センター	名誉院長
田中紀子	ハーバード大学公衆衛生大学院	客員研究員

研究内容

年をとると動脈硬化が起こります。動脈硬化は太い動脈でおこる粥状硬化症、中等度の動脈で起る中膜石灰化症、細動脈硬化に分かれます。中でも粥状硬化症では動脈壁が破壊されて動脈瘤を形成したり、内腔を狭窄して末梢の臓器の虚血・梗塞をおこしたりする重要な血管病である。心臓、脳、下肢の動脈に粥状硬化症がおこると、それぞれ、心筋梗塞、脳梗塞、下肢の壊疽をおこします。動脈は一般に体の深部を通過するため、粥状硬化症の程度を測定するのは困難で、病理解剖においてのみ全身の粥状硬化症の程度を一度に測定することが出来ます。今回、私たちは多数の病理解剖症例を用いて、80歳以上になっても、全身動脈の粥状硬化症が進行すること、90歳以上では性差がなくなることを見つけました。従って、70歳台、80歳台になっても粥状硬化症の進展を予防することが重要と思われました。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Sawabe M, Arai T, Kasahara I, Hamamatsu A, Esaki Y, Nakahara K, Harada K, Chida K, Yamanouchi H, Ozawa T, Takubo K, Murayama S, Tanaka M. Sustained progression and loss of the gender-related difference in atherosclerosis in the very old: a pathological study of 1074 consecutive autopsy cases. <i>Atherosclerosis</i> . 2006;186(2):374-379.	参照

このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

- ホーム
- 研究の紹介
- 倫理的配慮及び関連法規
- ご遺族の皆様へ
- 病理解剖例の特徴
- 共同研究を希望される研究者の方へ
- 共同研究事業運用要綱
- お問い合わせ
- このホームページについて
- リンク



- 東京都健康長寿医療センター
- 老年病のNFデータベース JG-SNP
- 高齢者フレイルバンク

HOME > 倫理規制例を用いた共同研究事業一覧 > 百寿者を含む高齢日本人の標準臓器重量について

病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

百寿者を含む高齢日本人の標準臓器重量について

共同研究者

氏名	所属	職名
沢辺元司	東京都老人医療センター剖検病理科	部長
斉藤真梨	東京大学医学部 健康科学・看護学科 疫学・生物統計学	大学院生

研究内容

日本人の標準臓器重量については幾つかの報告があるが、高齢者のデータは少ない。臓器重量に関して加齢に伴う変化や、栄養の影響について検討した。症例は1973年から2005年までに死亡した60歳から99歳までの1615連続病理解剖例である。50例の百寿者についても検討を加えた。ホルマリン固定前の9臓器の臓器重量を測定し、重篤な病気を有する臓器や99%を超えた外れ値を除外した。肺、男性の心臓以外の臓器では加齢に伴い重量の減少を認めた。低栄養は特に心臓と肝臓の重量減少に強く影響していた。以上、病院で死亡した病理解剖例に基づいて高齢者の標準臓器重量を決定した。低栄養も臓器重量の減少に有意に寄与していた。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Sawabe M, Saito M, Naka M, Kasahara I, Saito Y, Arai T, Hamamatsu A, Shirasawa T. Standard organ weights among elderly Japanese who died in hospital, including 50 centenarians. <i>Pathol Int.</i> 2006;56(6):315-323.	参照

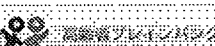
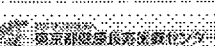
このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤性進歩研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都市健康寿命医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

- ホーム
- 研究の紹介
- 経歴的経歴及び関連施設
- ご来院の皆様へ
- 病理解剖科の特徴
- 共同研究を希望される
研究者の方へ
- 共同研究要綱(協定書)
- お問い合わせ
- このホームページについて
- リンク



hMLH1、hMLH1プロモーター領域を用いた共同研究事業一覧 | 加齢に伴い増加するミスマッチ修復遺伝子プロモーター領域のメチル化・マイクロサテライト不安定性を示す大腸癌の特徴

病理解剖科を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

加齢に伴い増加するミスマッチ修復遺伝子プロモーター領域のメチル化・マイクロサテライト不安定性を示す大腸癌の特徴

共同研究員

氏名	所属	職名
新井 啓生	東京都老人医療センター臨床病理科	部長
荒原 一郎	東京都老人医療センター臨床病理科	医師
沢田 元司	東京都老人医療センター臨床病理科	部長
本間 尚子	東京都老人総合研究所老年病のゲノム解析チーム	研究員
相田 尚子	東京都老人総合研究所老年病のゲノム解析チーム	研究員
田久 保寿翁	東京都老人総合研究所老年病のゲノム解析チーム	研究部長
江崎 行芳	茨城県済生会	部長
菅井 有	岩手医科大学分子細胞病理学	教授
中村 保一	DPR株式会社(前岩手医科大学臨床病理)	医師

研究内容

高齢者に集積のみられるmedullary type 低分化腺癌の発生において、hMLH1 遺伝子プロモーター領域のメチル化がどのような意義を持つかを明らかにすることを目的として、85歳以上の大腸低分化腺癌切除例35例(男13例、女22例、65-89歳、中央値78歳; medullary type 23例、pleomorphic type 12例)を対象とした。臨床病理学的検討に加え、hMLH1 蛋白発現、マイクロサテライト不安定性(MSI)、hMLH1 遺伝子プロモーター領域のメチル化を解析した。その結果、Medullary type ではhMLH1 遺伝子のメチル化が63%、hMLH1 蛋白発現異常が91%と高率に認められたが、pleomorphic type ではそれぞれ14%、17%であった。MSIはmedullary type 67%、pleomorphic type 40%であった。Medullary type は右半結腸発生、癌嚢内炎症細胞浸潤、リンパ管転移、比較的良好的な予後という特徴とともに、hMLH1 遺伝子のメチル化、hMLH1 蛋白発現異常、MSIとの関連が有意に認められた。以上の結果より、medullary type 低分化腺癌は特異な臨床病理像を示すことが明らかになり、この癌種の発生にはhMLH1 遺伝子のメチル化が重要な役割を演じていることが示唆された。また、MSIを示す大腸癌と植絛型・年齢との関連を検討したところ、MSIは低分化腺癌・結直腸で高率にみられ、低分化腺癌では加齢とともに増加した。これはmedullary type 低分化腺癌の増加に起因するものであった。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Arai T, Sugui T, Kasehara I, Sawabe M, Honma N, Aida J, Nakamura S, Takubo K. Age-related alteration in the association of microsatellite instability with absent hMLH1 expression and histological types of colorectal carcinoma. <i>Pathol Int.</i> 2000;56(10):597-603.	詳細
2	Arai T, Esaki Y, Sawabe M, Honma N, Nakamura K, Takubo K. Hypermethylation of the hMLH1 promoter with absent hMLH1 expression in medullary-type poorly differentiated colorectal adenocarcinoma in the elderly. <i>Mod Pathol.</i> 2004;17(2):172-178.	詳細

このホームページは、厚生労働省科学研究補助金(新薬薬機開発研究事業)を受けて作成されました。

Copyright© Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

HOME > 病理解剖例を用いた共同研究事業一覧 > パーキンソン病危険因子の解析

ホーム

研究の紹介

倫理的配慮及び関連法規

ご遺族の皆様へ

病理解剖例の特徴

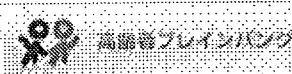
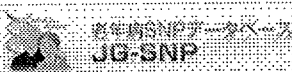
共同研究を希望される
研究等の方へ

共同研究事業運用要綱

お問い合わせ

このホームページについて

リンク



病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

パーキンソン病危険因子の解析

共同研究者

氏名	所属	職名
村山繁雄	東京都老人総合研究所高齢者ブレインバンク	リーダー
齊藤祐子	東京都老人医療センター創設病理科	医員

研究内容

ミレニアムプロジェクトスニップ研究で、アルファシヌクレイン遺伝子自体が、パーキンソン病発症の危険因子として同定された。この危険因子となる多型とそれ以外で、高齢者ブレインバンク検体を用いて遺伝子発現解析をしたところ、危険多型では遺伝子発現が亢進していることが確認され、意味づけが明らかとなった。

研究業績

#	論文名	リンク
---	-----	-----

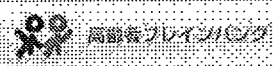
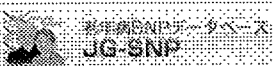
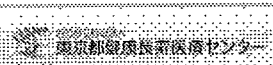
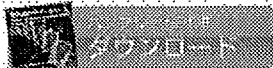
このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

- ホーム
- 研究の紹介
- 経理的配慮及び関連法規
- ご遺族の皆様へ
- 病理解剖の特徴
- 共同研究を希望される研究者の方へ
- 共同研究事業運用要綱
- お問い合わせ
- このホームページについて
- リンク



HGME > 遺伝子型を用いた共同研究事業一覧 > マクロサテライト不安定性を示す高齢者大腸粘液癌: 髄様型低分化腺癌との比較検討

病理解剖を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

マクロサテライト不安定性を示す高齢者大腸粘液癌: 髄様型低分化腺癌との比較検討

共同研究者

氏名	所属	職名
新井富生	東京都老人医療センター臨床病理科	医長
笠原一郎	東京都老人医療センター臨床病理科	医員
沢辺元司	東京都老人医療センター臨床病理科	部長
金澤伸郎	東京都老人医療センター外科	医長
黒岩厚二郎	東京都老人医療センター外科	部長
本間尚子	東京都老人総合研究所老年病のゲノム解析チーム	研究員
相田順子	東京都老人総合研究所老年病のゲノム解析チーム	研究員
田久保海蒼	東京都老人総合研究所老年病のゲノム解析チーム	研究部長

研究内容

大腸癌の中で、粘液癌と低分化腺癌は高頻度にマイクロサテライト不安定性(以下MSI)を示し、加齢とともにその発生頻度は増加する。MSIを示す大腸粘液癌の病理学的特徴を明らかにするとともに、髄様型低分化腺癌との関連性を明らかにする。高齢者大腸粘液癌35例(MSIを示す15例とMSIを示さない20例)を臨床病理学的に検討するとともに、粘液形質発現、hMLH1発現を免疫組織学的に検討した。粘液癌の結果を、MSIを高率に示す大腸髄様型低分化腺癌23例と比較した。その結果、MSIを示す粘液癌は高率にhMLH1発現減弱・MUC5AC発現がみられ、臨床病理学的にも右側結腸発生、腫瘍内炎症細胞浸潤、低リンパ筋転移率という特徴を示した。MUC2発現と加齢に伴う免疫頻度の変化を除いて、MSIを示す粘液癌は髄様型低分化腺癌と同様の特徴を示した。以上より、MSIを示す粘液癌と髄様型低分化腺癌とは共通する特徴を示すことが明らかになった。MSIとhMLH1発現減弱はこれら2つの大腸癌の発生に共通する重要な役割を演じている可能性が示唆された。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Arai T, Kasahara I, Sawabe M, Kanazawa N, Kuroiwa K, Honma N, Aida J, Takubo K. Microsatellite-unstable mucinous colorectal carcinoma occurring in the elderly: comparison with medullary type poorly differentiated adenocarcinoma. <i>Pathol Int.</i> 2007;57(4):205-212.	参照

このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

ホーム

研究の紹介

倫理的配慮及び関連法規

ご遺族の皆様へ

病理解剖例の掲載

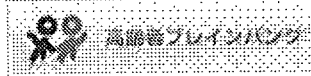
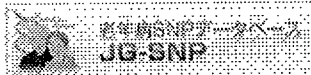
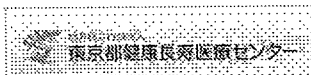
共同研究を希望される
研究者の方へ

共同研究顕著運用要綱

お問い合わせ

このホームページについて

リンク



HOME > 病理解剖例を用いた共同研究事業一覧 > 炎症性サイトカイン遺伝子の多型が病理学的粥状硬化に与える影響の検討

病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

炎症性サイトカイン遺伝子の多型が病理学的粥状硬化に与える影響の検討

共同研究者

氏名	所属	職名
村松正明	東京医科歯科大学難治疾患研究所	教授
池田仁子	東京医科歯科大学難治疾患研究所	助教

研究内容

心疾患や脳血管疾患の原因として、動脈硬化症は重要であり、動脈硬化症の発症および進展に関する分子機構の解明が求められている。近年、動脈硬化症の本態として、慢性かつ低レベルの炎症反応の影響が示唆されている。我々はこれまでに、東京都老人医療センター老年病SNPデータベース(JG-SNP)に登録された1503検体を用いて、炎症性サイトカイン遺伝子の遺伝子多型が病理学的粥状硬化に与える影響を検討して来た[#1]。この過程で、腫瘍壊死因子(TNF-alpha: Tumor Necrosis Factor-alpha)遺伝子のプロモーター領域に、新規シリアバリアント-856(G>A)を見だし、報告した[#2]。現在、この変異の機能を検討中である。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Oda K, Tanaka N, Arai T, Araki J, Song Y, Zhang L, Kuchiba A, Hosoi T, Shirasawa T, Muramatsu M, Sawabe M. Polymorphisms in pro- and anti-inflammatory cytokine genes and susceptibility to atherosclerosis: a pathological study of 1503 consecutive autopsy cases. Hum Mol Genet. 2007;16(6):592-599.	参照
2	Song Y, Araki J, Zhang L, Froehlich T, Sawabe M, Arai T, Shirasawa T, Muramatsu M. Haplotyping of TNFalpha gene promoter using melting temperature analysis: detection of a novel -856(G/A) mutation. Tissue Antigens. 2005;66(4):284-290.	参照

このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

HOME > 病理解剖例を用いた共同研究事業一覧 > 粥状動脈硬化の病理的進展と脂質代謝異常

病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

粥状動脈硬化の病理的進展と脂質代謝異常

共同研究者

氏名	所属	職名
村松正明	東京医科歯科大学難治疾患研究所	教授
池田仁子	東京医科歯科大学難治疾患研究所	助教

研究内容

脂質代謝異常が心筋梗塞等の循環器系疾患の背景となる事は知られているが、脂質異常が全身の動脈硬化度と与える影響を検討した研究はほとんどない。そこで本研究では全身の病理的動脈硬化度の危険因子を脂質代謝異常を中心に、高血圧、糖尿病、などの代謝疾患の有無、喫煙、飲酒などの生活習慣から多角的に相関を検討した。その結果、動脈硬化度には動脈毎の違いが大きいこと、性差による違いが大きいこと等が明らかになった。以上の事は、今後、粥状動脈硬化症の遺伝要因を探索して行く上での重要な基盤になると考えられる。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Naito T, Sawabe M, Arai T, Chida K, Hamamatsu A, Harada K, Ozawa T, Murayama S, Muramatsu M. Dyslipidemia is a major determinant of systemic atherosclerosis in the elderly: An autopsy study. <i>Geriatrics & Gerontology International</i> . 2007;7(3):229-237.	

- ホーム
- 研究の紹介
- 倫理的配慮及び関連法規
- ご遺族の皆様へ
- 病理解剖例の特徴
- 共同研究を希望される研究者の方へ
- 共同研究事業運用要綱
- お問い合わせ
- このホームページについて
- リンク



- 東京都健康長寿医療センター
- 病理解剖コラボレーションページ JG-SNP
- 高齢者ブレインバンク

このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

ホーム

研究の紹介

倫理的配慮及び関連法規

ご遺族の皆様へ

病理解剖例の掲載

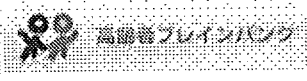
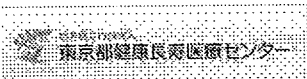
共同研究を希望される
 研究専の方へ

共同研究標準運用要綱

お問い合わせ

このホームページについて

リンク



HOME > 倫理規程を用いた共同研究事業一覧 > 高血圧性心筋症(高血圧性心肥大・心不全)関連遺伝子の同定に関する研究

倫理規程を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

高血圧性心筋症(高血圧性心肥大・心不全)関連遺伝子の同定に関する研究

共同研究者

氏名	所属	職名
木村彰方	東京医科歯科大学難治疾患研究所分子病態分野	教授
和泉徹	北里大学医学部循環器内科	教授
勝谷友宏	大阪大学医学研究科老年・高血圧内科	講師
沢辺元司	東京都老人医療センター剖検病理科	部長

研究内容

高血圧の生命予後因子のひとつとして、高血圧が続くと心肥大を生じ最終的には心不全に至る高血圧性心筋症がある。高血圧性心筋症の発症には高血圧の程度や継続期間があるが、同程度の高血圧が同程度の期間続いたとしても高血圧性心筋症の発症には個体差があり、この個体差はヒトゲノム多様性に起因すると考えられている。我々は高血圧性心筋症の発症に關わる遺伝子の同定を目的として、まず高血圧モデル動物(Dahl食塩感受性高血圧ラット)の心肥大期および心不全期の心筋を対象として網羅的遺伝子発現解析を行った。その結果、心筋に特異的に発現するBMP10が心肥大期、心不全期に発現が亢進することを見出した。ついで高血圧性心筋症患者および一般集団を対象としてBMP10遺伝子の多型解析を実施したところ、高血圧性心筋症と有意に関連する稀な多型(Thr326Ile)を発見した。ついでこの多型による機能変化を生化学的、細胞生物学的手法を用いて検討したところ、BMP10はZ帯タンパクである Teap と結合すること、Thr326Ile多型はTeapとの結合性を減弱すること、Thr326Ile多型は細胞外へのBMP10分泌を亢進することを見出した。さらに、ラット心筋細胞を用いて、BMP10は心筋細胞の肥大因子であることを明らかにした。以上より、BMP10多型は心肥大作用を介して高血圧性心筋症の発症を規定するものと考えられた。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Nakano N, Hori H, Abe M, Shibata H, Arimura T, Sasaoka T, Sawabe M, Chida K, Arai T, Nakahara K, Kubo T, Sugimoto K, Katsuya T, Ogihara T, Doi Y, Izumi Y, Kimura A. Interaction of BMP10 with Teap may modulate the course of hypertensive cardiac hypertrophy. Am J Physiol Heart Circ Physiol. 2007;293(6):H3395-3403.	参照

このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

- ホーム
- 研究の紹介
- 倫理的配慮及び関連法規
- ご遺族の皆様へ
- 病理解剖例の特徴
- 共同研究を希望される研究者の方へ
- 共同研究事業運用要綱
- お問い合わせ
- このホームページについて
- リンク



東京都健康長寿医療センター

老年病の診断データベース
JG-BNP

XPO 高齢者ブレインバンク

HOME > 病理解剖例を用いた共同研究事業一覧 > 加齢性難聴の病理組織学的研究

病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

加齢性難聴の病理組織学的研究

共同研究者

氏名	所属	職名
木村百合香	東京都老人医療センター	医員
高橋正時	東京医科歯科大学 耳鼻咽喉科学	医員
喜多村 健	東京医科歯科大学 耳鼻咽喉科学	教授

研究内容

近年、モデル動物やヒトを用いた遺伝性難聴の研究は、目覚ましい進歩を遂げ、分子レベルでの難聴原因の解析が行われている。一方、加齢性難聴に関しては、近交系マウスを対象として加齢性難聴関連遺伝子の研究がなされているものの、ヒトを対象とした分子レベルでの検討は十分ではない。老人性難聴に伴う内耳病変は、ヒトにおける側頭骨病理学研究によると、感覚細胞性、蝸牛神経性、血管系性、基底板運動障害性の4つのタイプに分類した形態学的解析などがある。これらの研究は、ホルマリン固定セロイジン包埋切片の光顕レベルでの組織形態によるものであり、分子病理学的解析による報告はきわめて少ない。これは、ヒト内耳は、生前の採取が不可能で開頭剖検時のみ採取が可能であり、検体の絶対数や生前の聴覚データに限りがあることや、骨組織に囲まれているため内耳の病理組織切片の作成が困難であることなどに起因する。しかしながら、加齢性難聴の病態解明と予防法の開発には、分子生物学的レベルでの病態解析が必須である。我々は、凍結標本を用いたヒト内耳の定量的mRNA解析手技を最近確立しており¹⁾、加齢性難聴の病態を分子病理学的アプローチを用いて解析していく予定である。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Kimura Y, Kubo S, Koda H, Noguchi Y, Sawabe M, Maruyama N, Kitamura K. Quantitative analysis of mRNA in human temporal bones. <i>Acta oto-laryngologica</i> . 2007;127(10):1024-1030.	参照

このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

- ホーム
- 研究の紹介
- 倫理的配慮及び調査法規
- ご遺族の皆様へ
- 病理解剖例の特徴
- 共同研究を希望される
研究者の方へ
- 共同研究事業運用要綱
- お問い合わせ
- このホームページについて
- リンク

HOME > 病理解剖例を用いた共同研究事業一覧 > 総頸動脈と冠動脈の粥状硬化症の相関について

共同研究事業一覧

研究課題名

総頸動脈と冠動脈の粥状硬化症の相関について

共同研究者

氏名	所属	職名
沢辺元司	東京都老人医療センター剖検病理科	部長
濱松晶彦	東京都監察医務院	医員
千田宏司	太田病院	副院長
原田和昌	東京都老人医療センター循環器科	部長
小澤利男	東京都老人医療センター	名誉院長
田中紀子	ハーバード大学公衆衛生大学院	客員研究員

研究内容

頸動脈エコー所見は一般に全身粥状硬化症の指標とされ、疫学調査では冠血管イベントの独立した危険因子である。我々は剖検例を用いて総頸動脈と冠動脈の粥状硬化症が本当に一致するか検討した。対象は80歳以上の連続剖検症例1,618例で、男女比は1.2:1、平均年齢は80歳。CC-AIとCSIは正の有意な相関を示し、単純相関係数は0.466であった。軽微な総頸動脈粥状硬化症(CC-AI≤2)を示す689例中74例(11%)で高度冠動脈硬化症(CSI≥12)を認め、80例(12%)で病理学的心筋梗塞を認めた。CC-AI≤2症例をCSI=12で2群に分けて比較したところ、CSI≥12群では血清コレステロール値、糖尿病・喫煙者の頻度が有意に高かった。総頸動脈粥状硬化症が軽くても、糖尿病、高脂血症、喫煙などの危険因子があれば、高度冠動脈粥状硬化症を少なからず合併していた。従って、頸動脈エコーで総頸動脈が正常であっても、動脈間の粥状硬化度の不一致から冠動脈リスクを低く見積もる可能性がある。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Sawabe M, Hamamatsu A, Chida K, Arai T, Harada K, Ozawa T, Tanaka N. Elderly patients with minimal common carotid atherosclerosis not infrequently have severe coronary atherosclerosis and myocardial infarction. <i>Circ J</i> . 2008;72(12):1946-1952.	参照

このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を基けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology

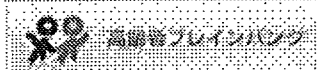
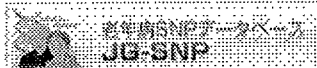
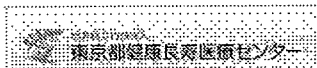
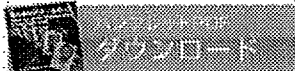


東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

HOME > 病理解剖例を用いた共同研究事業一覧 > 高齢者がん発生における DNA修復系異常の意義

病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

- ホーム
- 研究の紹介
- 倫理的配慮及び関連法規
- ご遺族の皆様へ
- 病理解剖例の掲載
- 共同研究を希望される研究者の方へ
- 共同研究事業運用要綱
- お問い合わせ
- このホームページについて
- リンク



研究課題名

高齢者がん発生における DNA修復系異常の意義

共同研究者

氏名	所属	職名
新井留生	東京都老人医療センター臨床病理科	医長
沢辺元司	東京都老人医療センター臨床病理科	部長
細井幸之	国立長寿医療センター先端医療部	部長
田中紀子	ハーバード大学生物統計学	客員研究員

研究内容

加齢に伴うがん発生率の増加はDNA損傷の蓄積と関連がある。我々は、DNA修復系の分子機構に注目し、高齢者がんと関連を検討した。その結果、ミスマッチ修復遺伝子のプロモーター領域のメチル化と高齢者に発生する胃癌・大腸癌とに関連を認め、これらの癌はhMLH1蛋白発現減弱、マイクロサテライト不安定性、低分化の組織像、低リンパ節転移率、予後良好という臨床病理的特徴を示した。一方、DNA修復系遺伝子(hOGG1, p53, XRCC1, hMLH1)の一塩基多型とがんと関連を剖検例を用いて検討した。一塩基多型とがん数に関連は認められなかった。しかし、一部の塩基多型は特定のがんと関連を示すものもあった。これらの所見より、DNAミスマッチ修復系遺伝子のメチル化は高齢者胃癌・大腸癌の発生に重要な役割を演じていると考えられた。また、DNA修復系の塩基多型は高齢者がんの発生に大きな影響はないことが示唆された。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Arai T, Sawabe M, Hosoi T, Tanaka N. Role of DNA repair systems in malignant tumor development in the elderly. <i>Geriatr Gerontol Int.</i> 2008;8(2):65-72.	公開

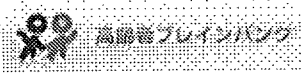
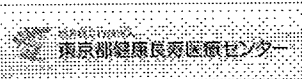
このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都市健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

- ホーム
- 研究の紹介
- 倫理的配慮及び関連法規
- ご遺族の皆様へ
- 病理解剖例の特徴
- 共同研究を希望される研究者の方へ
- 共同研究事業運用要綱
- お問い合わせ
- このホームページについて
- リンク



HOME > 病理解剖例を用いた共同研究事業一覧 > 老人の癌と炎症関連遺伝子の一塩基多型に関する研究

病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

老人の癌と炎症関連遺伝子の一塩基多型に関する研究

共同研究者

氏名	所属	職名
村松正明	東京医科歯科大学難治疾患研究所	教授
池田仁子	東京医科歯科大学難治疾患研究所	助教

研究内容

高齢者社会の進行に伴い、加齢と共に増加する癌はきわめて重要である。癌は、がん遺伝子やがん抑制遺伝子など、後天的な変異が蓄積することにより発症することが言われている。一方で、癌の発症そのものを起こし易くする、あるいは起こし難くする先天的な遺伝子については、殆ど知られていない。老化と癌が緊密に関連していると考えられるが、この共通のメカニズムの一つとして、炎症性変化が挙げられる。例えば、老化に従って血清中の炎症性マーカーが増大することはよく知られており、慢性的な炎症が引き金となり癌が発症することも知られている。しかしながら、高齢者を対象とした研究はほとんどないことから、老人癌の発症に関連する遺伝子多型について検討した。本研究では高齢者連続剖検例を用いて、がん発症メカニズムに関連していると報告のある炎症関連遺伝子の中でも、特に日本人で高頻度にみられ、がんとの関連が示唆されている6遺伝子について、10種類の一塩基多型について解析を行った。その結果、LTA rs1041981及びrs2229094多型とがん発症の有無との関連を見いだした[#1]。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Takei K, Ikeda S, Arai T, Tanaka N, Muramatsu M, Sawabe M. Lymphotoxin-alpha polymorphisms and presence of cancer in 1,536 consecutive autopsy cases. BMC Cancer. 2008;8:235.	公開

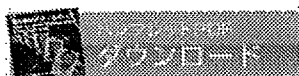
このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤性遺伝研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

- ホーム
- 研究の紹介
- 倫理的配慮及び関連法規
- ご遺族の皆様へ
- 病理解剖例の特徴
- 共同研究を希望される研究者の方へ
- 共同研究事業運用要綱
- お問い合わせ
- このホームページについて
- リンク



HOME > 病理解剖例を用いた共同研究事業一覧 > 変形性関節症の病態と進行機序の解明に関する研究

病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

研究課題名

変形性関節症の病態と進行機序の解明に関する研究

共同研究者

氏名	所属	職名
福井尚志	国立病院機構相模原病院病態総合研究センター	研究部長

研究内容

変形性関節症(OA)は高齢者に多く見られる関節疾患である。わが国では社会の高齢化に伴って患者数は増加しており、潜在的有病者は全国で2000万人ともいわれる。しかしOAに対する効果的な治療は現在までに確立されていない。この理由はOAの病態や進行機序が十分解明されていないことにある。本共同研究の目的は関節疾患を有さない割換例から高齢者の正常な関節組織を採取し、それを進行過程や末期のOA症例の関節組織と対比させて解析することによってOAにおける関節各組織の変化を明らかにし、疾患の進行機序を明らかにしようとするのである。解析ではRNAを抽出して行う遺伝子の発現強度の解析と特定の分子に着目してその発現部位、組織中の存在量、存在形態などを明らかにするタンパクレベルの解析を平行して行う。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Fukui N, Ikeda Y, Ohnuki T, Tanaka N, Hikita A, Mitomi H, Mori T, Juji T, Katsuragawa Y, Yamamoto S, Sawabe M, Yamane S, Suzuki R, Sandell LJ, Ochi T. Regional differences in chondrocyte metabolism in osteoarthritis: a detailed analysis by laser capture microdissection. <i>Arthritis and rheumatism</i> . 2008;58(1):154-163.	参照
2	Fukui N, Miyamoto Y, Nakajima M, Ikeda Y, Hikita A, Furukawa H, Mitomi H, Tanaka N, Katsuragawa Y, Yamamoto S, Sawabe M, Juji T, Mori T, Suzuki R, Ikegawa S. Zonal gene expression of chondrocytes in osteoarthritic cartilage. <i>Arthritis and rheumatism</i> . 2008;58(12):3843-53	参照

このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology



東京都市健康長寿医療センター
病理解剖コラボレーション(共同研究)事業

- ホーム
- 研究の紹介
- 論理的配慮及び倫理法規
- ご遺族の皆様へ
- 病理解剖例の特徴
- 共同研究を希望される研究者の方へ
- 共同研究実施運用要綱
- お問い合わせ
- このホームページについて
- リンク

HOME > 病理解剖例を用いた共同研究事業一覧 > 冠状動脈疾患(心筋梗塞・狭心症)関連遺伝子の同定に関する研究

病理解剖例を用いた共同研究事業一覧

研究業績名

冠状動脈疾患(心筋梗塞・狭心症)関連遺伝子の同定に関する研究

共同研究者

氏名	所属	職名
木村彰方	東京医科大学大学院治療学研究所分子病態分科	教授
和泉徹	北里大学医学部循環器内科	教授
Jeong-Euy Park	SungKyunKwan University School of Medicine, Samsung Medical Center, Div. Cardiology (Korea)	教授
沢辺元司	東京都市老人医療センター剖検病理科	部長

研究内容

冠状動脈疾患は心臓を栄養する冠状動脈の動脈硬化性病変を基盤とし、血栓や血管痙攣によって血流が途絶ないし減少して心筋の虚血を生じる疾患であり、臨床的な発現型は心筋梗塞や狭心症などである。冠状動脈疾患発症の危険因子として男性、高齢、高血圧、肥満、高脂血症、喫煙、糖尿病などが知られているが、これらの危険因子を補正しても家族歴の有無で約3倍程度の発症率の差があることから、遺伝的要因(ヒトゲノム多様性)も疾患発症に寄与すると考えられる。このような観点から、心筋梗塞や冠状動脈硬化症の遺伝的要因を探る研究が行われている。とりわけ、網羅的な遺伝子多型解析は従来の知識バイアスなしに新たな疾患関連遺伝子を特定する有力な手法である。このような手法で日本人心筋梗塞の感受性遺伝子としてリンボトキシンA遺伝子(LTA)多型が報告されている。また、LTAと機能的連関を有するガレクチン2遺伝子(LGALS2)多型が報告された。また、欧米人では心筋梗塞を中心とする冠状動脈疾患の感受性を決定するゲノム多様性として9p21領域多型が報告された。我々は日本人および韓国人集団を対象として、これらの多型と冠状動脈疾患との関連を検証した。その結果、LTA多型、LGALS2多型は日本人、韓国人ともに心筋梗塞との有意な関連を認めなかったが、LTA多型は冠状動脈硬化の重症度(有意後発を呈する冠状動脈数)との関連を示した(#1)。一方、9p21領域多型との有意な関連は日本人および韓国人のいずれにおいても観察された(#2)。

研究業績

#	論文名	リンク
1	Kimura A, Takahashi M, Choi BY, Bae SW, Hohta S, Sasaoka T, Nakahara K, Chida K, Sawabe M, Yasunami M, Naruse Y, Izumi T, Park JE. Lack of association between LTA and LGALS2 polymorphisms and myocardial infarction in Japanese and Korean populations. <i>Tissue Antigens</i> . 2007;69(3):265-269.	参照
2	Hinojara K, Nakajima T, Takahashi M, Hohta S, Sasaoka T, Nakahara K, Chida K, Sawabe M, Arimura T, Sato A, Lee BS, Dan JM, Yasunami M, Park JE, Izumi T, Kimura A. Replication of the association between a chromosome 9p21 polymorphism and coronary artery disease in Japanese and Korean populations. <i>J Hum Genet</i> . 2008;53(4):357-359.	参照

このホームページは、厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)を受けて作成されました。

Copyright(c) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute of Gerontology